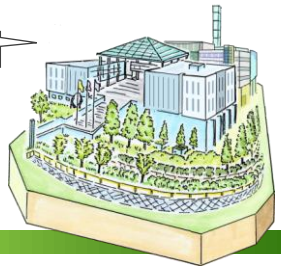
2022(R4)年 11 月　No312 (隔月発行)

万博ごみゼロ 11 月 12 日 参加者募集



しみんけんきゅうニュース

発行:(公財)千里リサイクルプラザ　市民研究所　〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園4－3
TEL 06-6877-5300　FAX 06-6876-0530　http://www.senri-recycleplaza.or.jp/

市民研究所これまでの30年～～これからの30年

【目次】

P2　TOPICS
P3　各チーム活動報告
P4-5　特集(研究所これからの 30 年)
P6　主担研究員コラム
P7　市民研究所通信
P8　11･12 月行事予定

30 周年記念式典

研究体制の変更
理論から実践へ
出前講座･学習支援の開始

写真１０：買い物をする参加者

千里リサイクルプラザ(研究所)発足

これからの 30 年を
皆で考えて
ほしく思います

TOPICS

くるくるキッズ環境スクール工房体験

８月１８日スクール生１０名が紙すき体験と木工体験をしました。小学４年生が施設見学後の体験学習の際に３R について説明をしてから紙すきを体験してもらっていますが、スクール生は１年生～３年生、“地球”という漢字が読めず難しかったようです。話を聞くスクール生の目は真剣で、学ぼうとする姿勢がとても印象的でした。保護者の皆様も一緒に画像を見て学び、スクール生よりもリデュースの意味・意義を学ぶ機会になったのではないでしょうか？

３R を学んだ後、紙パックから取り出したパルプの液で紙すきを体験し、自分好みの絵柄を使ってオリジナルのハガキやグリーティングカードを作りました。楽しかった時間と出来上がった作品の思い出が、今後の環境問題を考えていく“小さな芽”となってくれるよう願うばかりです。

(市民研究員　結城美知江)

市民研究員研修講座「初心者でもできる動画制作」

（編集ソフトを使っての作成例　Ver.2）

日時：令和４年９月３日（土）

講師：黒田　勇（千里リサイクルプラザ市民研究所　主担研究員）

昨年に続き２回目の動画つくりの講座でしたが、動画制作の基本的な流れを再度説明されました。　動画つくりの流れの割合は、

①7 割：撮影前の仕事（動画の目的・構成を明確に・目的に合わせて脚本を作る）

②1 割：動画の撮影（カメラしっかり持つ・対象にカメラを動かさないでゆっくり撮る）

③2 割：動画の編集（視聴する立場に立って・「6W1H」を意識する編集必要がある）

そして、今回の講座では動画のリテラシー（読む、書く、使う）の重要性を改めて強調されました。また、動画で大切なのは音楽と言葉で、ナレーション、テロップや BGM などの音楽の重要性を実際のコマーシャルの動画を紹介して説明され、よく理解できました。動画編集ソフト「パワーディレクター」を使って先生が作成した「30 周年行事」の動画を使って、「習うより慣れよ」と「操作の手順」は「自分の試行錯誤」に限ると断言されたので、皆さんも無料のソフトを使って試行錯誤してみませんか！

（市民研究員　茶園征也）

プロジェクトチーム（PT）・アクションチーム（AT）活動報告

市民とお店をエコでつなぐ PT

プラスチックごみ削減ポスターについては、次年度以降の検討課題としました。その代わりに、家庭や学校でも使えるような「双六ゲーム」を作成する方向で検討していきます。また、動画作成のためのシナリオの修正を行い、動画の撮影を改めて行いました。

吹田ごみゼロシステム研究 PT

定例会において、各担当からの進捗状況を報告しました。また、第 6 回環境スクールでの活動紹介の原稿作成について、わかりやすい内容でまとめることを確認しました。

身近な環境を調べよう PT

令和 2 年から年 4 回実施してきた糸田川の調査も 3 年目となり今年度は残り 1 回を残すのみとなりました。調査データも集まり、動画もひとまず完成しました。これから主担の先生のアドバイスをいただいて、最終調整をしていきます。プラザの HP アップまでもう少しです！

SDGs 啓発 PT

10 月 13 日の環境スクールでチーム紹介と SDGs のカードゲームを実施しました。9 月 6 日、10 月 11 日には定例会で、10 月 19 日に実施する初めての出前講座に向けて、プログラムの詳細を話合いました。子ども達が SDGs を学べる良いプログラムになりそうです。

手作りおもちゃと環境 AT

定例会で“オランダ風車”の作成体験をしました。クラブ支援で初めて“マスカレードマスク”の出前講座をしましたが、材料の配置など工夫して問題なくできました。

紙すき体験と環境 AT

体験してもらう前に環境について学んでもらってから、紙すきをしてもらうようにします。インターンシップ生の力作パネルを展示し、紙すきを知ってもらう機会を設けています。

マイ食器啓発 AT

9 月に発足したてのチーム、“リユース食器→マイ食器へ”啓発活動をしていきたいです。どのように活動していくか模索中・・何か発想とご意見を！活動にご参加ください！！

これからの３０年

子へ、孫へ、もっとその先へ

主担研究員　土屋正春

1　30 年×2　の持つ意味は

私たちの活動拠点である千里リサイクルプラザが設立されて３０年を迎えました。３０年間というとちょうど１世代分の年月が経過したと考えると分かりやすいですね。もうひと区切り、これからの 30 年と合せると２世代 60 年間になります。「ごみ」が一躍時代の脚光を浴びるようになっての２世代の受け止め方、その変化を考えることができるというのは得難いチャンスです。

この間、大小様々の課題に直面してきましたがそれでも途切れることなく活動が継続できたのは、環境問題の深刻な状況が繰り返しテレビで放送されたり、スーパーなどでのトレイ類の店頭回収が当たり前のようになったという社会的な背景が作用したのは確かなことです。

他人事ではなく自分事として受け止める姿勢が少しずつですが定着傾向にある、とは言えるでしょうね。大切なのはこの傾向の拡大とスピードアップをいかにして確保するのかです。

2　将来世代との関係

こうした活動をもっと広い見方に立つと意外でしかも重要な展開を知ることができます。ここからはその代表的な考え方をいくつか挙げることにします。この先 30 年、あるいは 60 年、さらには 100 年 200 年という将来の世代との関係に関する議論です。

大切なのは、当然のことながら将来の世代は今はまだいない人々なので私たちはお互いの考え方を知る相互交流の方法がないという事実です。この点をいかにしたら克服できるか、そのための代表的な考え方の流れを示すことが本稿の目的で、それを忘れないようにしてください。

（1）考え方Ａ「責任はあろうが根拠が不明確」

これはD.キャラハンの考え方で 1971 年に公にされました。以下がその要点だといえます。

キャラハン説
- 私たちの世代が将来の世代に対して、再生不可能な資源を残すことや環境の質を維持することなどの責務はあるかも知れない。
- しかし、こうした責務は私たちの現在の最高の価値である自由への制約を伴うため、明確な証拠が必要だ。だが、実際にそれがあるのか？
- 将来に関する漠然とした推測や不確実な予測で現在世代の権利を奪うことはできない。

キャラハン説は次のパスモア説と自由や権利を損ねるわけには行かないとする点では似ていますが、将来世代の価値観がどういうものなのかがはっきりせず、この不確実性のゆえの対応の難しさを強く意識しているといえるでしょう。

（2）考え方Ｂ「今の世代の利益が優先する」

これはＪ.パスモアが 1974 年に公にしたもので、概要は次の通りですがずいぶんはっきりしていますね。

パスモア説
- 澄んだ水やきれいな空気は将来世代の利益となるだけでなく、直接にわれわれ自身の利益にもなる。
- しかし、有限である資源を将来の世代に残すために資源の消費量を抑えることは、将来の世代のためにはなっても、直接的には現在生活している我々自身の利益にはならない。

なぜ自分達の利益にもならないことをする必要があるのか、自分達が資源の消費を抑えても得をするのは将来の世代だけではないのか、というのです。この問いかけには資源を後の世代に残すことでその生活安定に寄与できるという満足感を得ることは「利益」としては認識されていないことになります。

皆さんはスーパーの店頭回収にペットボトルなどを運ぶとき、どんな思いをしていますか。

（3）考え方C「自己愛、自己実現のためだ」

これはW.ワグナーが1971年に公にしたものですが、これまで挙げた考え方ＡやＢとは雰囲気が大きく異なります。行動する側の気持ちが大切なのだという感覚が背景にあります。

ワグナー説
- 我々が将来の世代の利益に配慮しながら行動すべきなのは、自身の自己愛の要求（self-love needs）に基づいている。
- 将来を予測したり、将来の世代を気づかうことで現世代の共感の能力と同情心が高められる。
- この種の能力は各人が安全で満足のゆく自己実現のためにはどうしても必要なものだ。

まだいない相手をどう考えるのか、ではなくて自分たち自身の成長のため、それを「利益」と考えて将来に向かって行動すべきで、それがひいては「現在のよき生活にとって助けになる」というのです。

この考え方に立つと、環境保護活動は今の世代からの一方的な行動として位置づけられることになり、「我々の子孫が我々に何をしてくれたというのか」として将来世代への配慮を拒む立場とは真逆の展開になりますね。

そう、分別をきちんとするのも、集団回収で何かの役を引き受けるのも、それで自分が成長できるのだから・・となると得られる「利益」は大変なものになります。

（4）考え方D「自由な価値追求を将来世代に」

これはＳ.フレチェットが1979年に公にしたものですがＡやＢより登場が遅い分だけ「権利」と「義務」の関係を当然の前提とすべきだとの議論状況を反映していて、組み立て方は分りやすくなっています。

世代を超えた心遣いが相互関係としてに成り立つのか、この難題への一つの解の提示なのですが、日本社会における「恩」の考え方が出てきたりして面白い面もありますね。

要は、① 環境を大切に皆で守ろうといくら呼びかけても状況の悪化は改善できない。より強く、世代を超える「権利と義務」の関係を想定しないとならない。 ② この強い関係を設定するためには当事者同士の現実的な関係、つまりは相互関係の存在が不可欠だ。まだ見ぬ将来の人々との相互関係は、親子関係を代々つなぐことで成立するのではないか、というものです。

相手がまだいないから何もできないのか。ここをフレチェットは工夫して、日本にある「恩」や「恩がえし」の考え方には、世代間の契約とそれを可能にする「世代間の相互性」が見られるのではないか、と主張しているのです。

フレチェット説
- 我々は後の世代のために何をなすべきかについて（厳密にいえば）知らないが、何をすべきでないかについては多くの情報を持っている。
- プルトニウムやＤＤＴの永続的な毒性が将来世代に危害を与えないとの仮定は承認できない。
- 現在世代が将来世代の利益に配慮をするというのは、将来の世代がその価値観の自由な追求ができるようにすることだ。
- 重要なのは人間としての基本的な生存条件の保証をするということだ。

相互性が認められれば権利義務の関係が両者の間に成立することになります。将来世代には「自然を大切に」どころではなく、自然の脅威を恐れる時代に生きる可能性もあるのです。

今からは全く不明の条件下で生活する人々が大切にしたい価値の追求を考えると、人々が自由に考えて決められるように、今の世代にはその生存のための条件整備を進める責務があるとの結論になります。その時代のことはその時代の人々が考えて決める、それができるようにすべきだというのです。

3　小学校から見直しを

関心の拡大とスピードアップが必要だと先に述べましたが、たとえば吹田市立の小学校の全てがプラザと満足すべき交流関係にまで達している訳ではないのです。

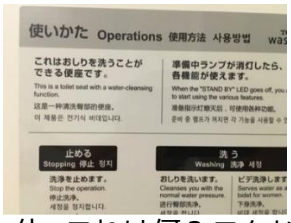
まずはプラザの市民研究所の皆さんと将来世代である私たちの子や孫との相互関係をより充実させるために欠けていることは何なのかなど、洗い出しが必要だと考えるものです。いかがでしょうか。

ところ変われば–今ある便利さを疑うことから始めよう

主担研究員　内田慶市

この９月、実に３年ぶりにローマを訪れることが出来た。バチカン図書館での資料調査が目的であったが、日本では先ずお目にかかれない突き抜けるような澄み切った青空と紀元前から幾多の人が踏みしめた石畳の感触に、長いコロナ禍で溜まっていた鬱屈をしばし晴らすことが出来たように思う。

ところで、以前、関空の国際線のトイレには次のようなピクトグラムと説明書きが貼られていた。



日本人にしてみれば、一体、これは何？こんなの必要なのかと思うはず。しかし、それが違うのだ。「ところ変われば品変わる」というが、こちらの「当たり前」「正しさ」は必ずしも向こうの「当たり前」「正しさ」とは限らないのが世の常である。そもそも、日本以外に「おしりを洗うことができる便座」などほとんど存在しないのだ。

2020 年度の内閣府の調査によれば日本でのウォシュレットの普及率は 80.2%。これに対して、元々はアメリカで痔の治療のために開発されたものらしいが、そのアメリカでも 10%未満、中国では 5%未満である。実際、この 20 数年間、私は毎年何回かアジア圏や欧米に出かけているが、韓国で 1, 2 度お目にかかっただけで、他では皆無である。つまり、一種の「ガラパゴス」製品と言ってもいいような代物ということになる。

しかしながら、これに「飼い慣らされた」「ヤワなお尻」を持つ日本人は、海外に行くと真っ先に直面するのがこの「お尻」問題なのだ。

今回も久しぶりのローマのホテルに着いて困ったのがこれだった。ウォシュレットがないからついついトイレットペーパーで何回も「ごしごし」やってしまうのだ。2、3 日もすればお尻が痛くなる。以前は携帯用のウォシュレットを持参したが、どうも使い勝手がよくない。水の勢いがダメなのと量が足りないのだ。ただ、ヨーロッパだとホテルのバスルームにはトイレの隣には大概ビデがある。イタリアでは 1975 年にトイレには必ずビデを設置するという法律が出来たそうだが、これでウォシュレットの代用をすることになる。

ところが、これがまた笑い話になるのだが、このビデは東洋人には無縁のもの。いつだったか中国の留学生とローマに行ったとき、彼が「先生、ホテルのトイレは足湯が出来ていいです。疲れが取れます」と言ったのには思わず笑ってしまった。また、ある友人などは、「トイレの横には洗濯する場所があっていいですね」とも。これがビデだとは先ず分からない。

さて、ウォシュレットだが、エコとか SDGs の観点からはどうなんだろうと考えてしまう。これに使用する水の量は半端ではないはずだ。しかし一方で、トイレットペーパーの使用量は少なくなるのかも知れない。

また、昔、アメリカに 1 年住んでいたときに感じたのが、アメリカ社会でのティッシュの使用量が半端ではないということだった。ファーストフード店でもスタバでもトイレでも紙タオルの山である。国際線の機内のトイレでも同様だ。環境破壊の最たるものである。

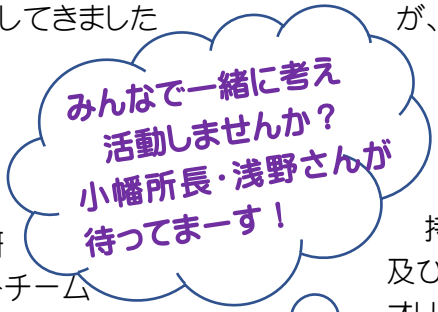
いずれにせよ、エコとか SDGs とかを考える場合、最も必要なのは、当たり前の便利さの裏にあるものを見ることだと思っている。エコとは何か、SDGs とは何か、その答えは、実は私たちのごく身近にあるのではないだろうか。

“マイ食器啓発アクションチーム”を立ち上げました！

市民研究所通信

高度経済成長下の使い捨て時代は過ぎ、持続可能な循環型社会の形成を目指して、これまでリユース食器事業を行ってきました。最近では SDGsの目標12の「つくる責任つかう責任」、目標 14 の「海の豊かさを守ろう」などの様々なサスティナブルな考えが広がってきています。

なかなか終息しないコロナ禍の中、地域のイベント等が中止になり、リユース食器の貸出がほとんどない状況で、繰り返し使うリユース食器からマイ食器持参を打ち出していきたいと考えていました。レジ袋削減に伴ってエコバック持参が定着してきましたが、今回はマイ食器持参を目標に新アクションチームを立ち上げました。

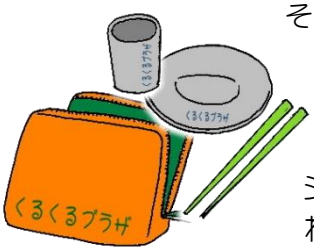


今年で(公財)千里リサイクルプラザも設立 30 周年を迎えました。市民研究所も様々なプロジェクトチームを立ち上げ、環境問題に取り組み研究活動を行ってきました。

市民研究所開始まもなくより活動してきました「市民とお店をエコでつなぐプロジェクトチーム」が調査研究してきたレジ袋削減については、近年プラスチック問題を国レベルで考えられるようになり、レジ袋有料化の実現、マイバック持参が当たり前になってきました。

また、20年前に「イベントのごみゼロ化に関する開発研究プロジェクトチーム」が始め、後の「エコイベントプロジェクトチーム」が立ち上げたリユース食器貸出事業を財団事業として位置付け使い捨て食器の削減に努めてきました。

しかし、ここ数年コロナ禍での接触感染の恐れ、リユース食器では洗浄作業の必要性、洗浄場所の確保、など様々な問題もあり、今後はマイ食器持参運動への転換が必要と考えています。



オリジナルマイ食器セット(案)

その取り組みの第1歩としてマイ食器啓発チームの立ち上げを計画し、9月に研究運営委員会でアクションチームとして承認されました。

(公財)千里リサイクルプラザ リユース食器

今後5年を目途にマイ食器持参の啓発運動及びくるくるプラザオリジナルのマイ食器の開発に向けて、研究を重ねていきたいと計画しています。

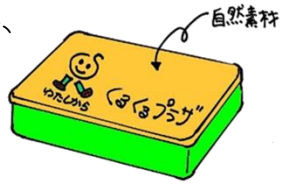
先ずは現在在庫としてあるリユース食器の今後の利用方法です。リユース食器貸出事業からマイ食器持参運動へ変更していく場合、大量に保有しているリユース食器を処分することはごみを増やすことに繋がり、財団の趣旨に反します。

① 現在のリユース食器をどのように利用するか。
② マイ食器持参の啓発活動の方法。
③ マイ食器を開発する場合は何に重点置くか。
④ コストはどうするか。
⑤ 企業と提携してはどうか。

など様々な研究課題があると思います。

現在は事務局中心のアクションチームとして、市民研究員3名で進めていく予定ですが、くるくる環境スクールの終了生や、現在の他のチームの研究員の方々等興味のある方は現チームと兼ねて参加していただければ、大きく発展していけるのではないかと考えています。

ぜひ、たくさんの方と切磋琢磨し、マイ食器持参啓発運動を展開していきませんか？



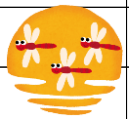
オリジナル自然素材
食品保存容器(案)

(事務局　参事　天野美晴)

研　究　所　11　月　の　予　定

日	曜	催し	時間・場所	備考	
1	火				
2	水				
3	木	休館日		文化の日	
4	金				
5	土	第7回代表者会議	13:15～ プラザ講義室	主担・代表者・ 事務局	
6	日	定例会	13:00～ プラザ講義室	手作りおもちゃと 環境AT	
7	月	休館日			
8	火	定例会	14:00～ プラザ講義室	SDGs啓発PT	
9	水	環境出前講座（クラブ支援）	吹一小学校	手作りおもちゃ	
10	木				
11	金	ごみゼロウォーク準備			
12	土	ごみゼロウォーク 環境スクール⑦			
13	日				
14	月	環境出前講座（クラブ支援）	千一小学校 藤白小学校	市民とお店 紙すき	
15	火				
16	水				
17	木				
18	金	定例会	10:00～ プラザ講義室	市民とお店をエコでつなぐPT	
19	土	くるくる キッズ環境スクール⑤⑧	10:00～15:00 プラザ	閉校式	
20	日				
21	月	休館日			
22	火				
23	水	休館日		勤労感謝の日	
24	木				
25	金	第3回 ごみゼロウォーク実行委員会	13:30～ プラザ		
26	土				
27	日	くるくるコレクション			●
28	月	休館日			
29	火				
30	水				

11／5　10：00～11：30
市民研究員研修講座③もあります。



研　究　所　12　月　の　予　定

日	曜	催し	時間・場所	備考	
1	木				
2	金				
3	土	第7回代表者会議 市民研究所研究実践発表会	10:00　プラザ 13:00　プラザ	役員・主担・市民 研究員・事務局	
4	日	定例会	13:00～ プラザ講義室	手作りおもちゃと 環境AT	
5	月	休館日			
6	火				
7	水				
8	木	定例会	14:00～ プラザ講義室	身近な環境を調べようPT	
9	金				
10	土				
11	日	くるくるクリスマス			●
12	月	休館日			
13	火				
14	水				
15	木	ニュース原稿締切			
16	金				
17	土	環境スクール⑧つながり広場	10:00～11:30 プラザ	閉校式	
18	日				
19	月	休館日			
20	火				
21	水				
22	木				
23	金				
24	土				
25	日	ニュース発送準備	プラザ	吹田ごみゼロシステム研究PT	
26	月	休館日			
27	火				
28	水				
29	木	休館日			
30	金	休館日			
31	土	休館日			

は、資源リサイクルセンター（くるくるプラザ）の休館日です。●は、一般の方も参加できます。詳しくはプラザまで。

※予定は、変更する場合があります。